

仙台高等専門学校				総合工学科Ⅲ類（1年）								開講年度				令和03年度（2021年度）											
学科到達目標																											
学校の教育目標																											
1. 主体性と協調性をもつ人間性豊かな人材の養成																											
2. 広く深い視野をもつ実践的で創造的な技術者の養成																											
3. 地域や国際社会に貢献できる技術者の養成																											
総合工学科の教育目標																											
1. 主体性と協調性をもつ人間性豊かな人材の養成																											
2. 広い視野をもつ実践的で創造的な技術者の養成																											
3. 地域や国際社会に貢献できる技術者の養成																											
科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																担当教員	履修上の区分				
						1年				2年				3年				4年						5年			
						前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後						
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4								
Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q								
専門	必修	空間デザイン概論 A	0001	履修単位	1	2																小林 仁 坂口 大洋 伊師 華江 相模 誓雄 権代 由範 藤田 智己 吉野 裕貴					
専門	必修	空間デザイン概論 B	0002	履修単位	1	2																飯藤 將之 相模 誓雄					
専門	必修	総合工学基礎	0003	履修単位	4	4 4																相模 誓雄 吉野 裕貴 伊師 華江 熊谷 進					
専門	選択	総合科目 B デザインコンテスト	0004	履修単位	1	1 1																小林 仁					

仙台高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	空間デザイン概論 A	
科目基礎情報							
科目番号	0001			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	総合工学科Ⅲ類 (1年)			対象学年	1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	小林 仁,坂口 大洋,伊師 華江,相模 誓雄,権代 由範,藤田 智己,吉野 裕貴						
到達目標							
建築学の様々な分野の内容、及び現代の考え方と技術レベルそして次世代(Society5.0)に向けた課題を把握する。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
建築学		建築学の分野がすべてわかる。		建築学の分野がおおよそわかる。		建築学の分野がわからない。	
関連する数理・データサイエンス分野のリテラシー		関連する数理・データサイエンス分野のリテラシーの概要を説明できる。		関連する数理・データサイエンス分野のリテラシーの概要を把握している。		関連する数理・データサイエンス分野のリテラシーが分らない。	
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	建築学には構造や計画など様々な分野がある。各分野がどのようなものか把握する。併せて次世代(Society5.0)に向けて、関連する数理・データサイエンス分野のリテラシーの概要についても把握する。						
授業の進め方・方法	建築デザインコースの各教員が1コマを担当するオムニバス形式の授業です。 予習：毎回の授業前までに、授業で行う内容を考えて整理しておくこと 復習：毎回の授業後に、授業で学んだことを振り返り、今後へ活かす方法を考えること。						
注意点	授業スケジュールを把握しておくこと。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		授業の全体像を理解する。		
		2週	建築って何		実例をもとに歴史的な経緯から建築の概念（定義）をつかむ。		
		3週	建築デザイン		建築デザインの役割、職種、実際のデザインプロセスについて把握する。また、関連する社会変化(Society5.0)とデータの活用領域及び活用の最新動向について把握する。		
		4週	建築材料		建築における材料学の位置付けと身近にある材料を知る。		
		5週	建築環境01		建築における温熱環境の位置づけを理解する。また、関連する社会変化(Society5.0)とデータの活用領域及び活用の最新動向について把握する。		
		6週	都市計画		都市計画やまちづくりを巡る現状や諸課題について理解する。		
		7週	建築構造01		建築物の構造の種類と特徴を理解する。		
		8週	建築構造02		建築物と地震の関係を理解する。		
	2ndQ	9週	建築環境02		建築における音環境の位置づけを理解する。		
		10週	建築デザインと錯視 復習：調査とまとめ（建築デザインにおける錯視の積極的利用について）		幾何学的錯視の基本図形を確認し、建築デザインとの関わりを考察できる		
		11週	建築構造03		免震、制震、耐震対策に特化した建築について理解する。		
		12週	建築史：相模：旧中沢家住宅の見学 復習：八力キを使った記録		歴史的建築がわかる。		
		13週	建築計画		建築計画分野の全体像の理解と日常生活における施設や場の役割を認識する。また、関連する社会変化(Society5.0)とデータの活用領域及び活用の最新動向について認識する。		
		14週	建築設計の体験		キャンパス内の居場所の設計を行うことで、建築設計の重要性、建築設計のプロセスを知る。また、建築設計分野でのデータを扱う。		
		15週	実際の建築現場における建設プロセスの見学		実際の建築の施工現場の見学を行い、建築施工の重要性と建築施工プロセスを知る。		
		16週	授業全体の振り返り		様々な建築分野の講義ポイントをレポートを作成し、個々の分野の意味を深く身につけ、学生相互で共有する。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計

総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	100	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

仙台高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	空間デザイン概論 B	
科目基礎情報							
科目番号	0002			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	総合工学科Ⅲ類 (1年)			対象学年	1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	検定教科書「建築構造」実教出版						
担当教員	飯藤 将之,相模 誓雄						
到達目標							
1) 材料・形態の変遷及び建築の基礎を理解すること。 2) 木造建築物を構成する材料と部材、および全体にかかる力の流れを理解すること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
部位名の理解	図を見て、構造部材の部位名を的確に答えることができる。			図を見て、主要構造部材の部位名を答えることができる。		図を見て、主要構造部材の部位名を答えることができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	この科目は企業で建築設計監理を担当していた教員が、その経験を活かし、建築設計に必要な基礎的な知識について講義形式で授業を行います。 木造の住宅の基礎、軸組、小屋組。床組、仕上について学習します。						
授業の進め方・方法	毎回記入シートを配布する。部材の名称と働きを解説し、要点を板書する。記入シートに図を描いたり、板書を書き写したりして授業の要点をまとめ、自身のテキストブックを作成する。 予習：教科書を読んでくる 復習：記入シートを完成させる						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
後期	3rdQ	週	授業内容			週ごとの到達目標	
		1週	ガイダンス、尺貫法			木造住宅の基本モジュールを理解する	
		2週	木構造の特徴・構造形式			木構造の特徴・構造形式について説明できる。	
		3週	木材の性質			木材の種類・性質について説明することが出来る。	
		4週	地業と基礎			木構造の地業と基礎を理解する	
		5週	軸組 1			軸組みの構法を理解している。	
		6週	軸組 2			軸組みの構法を理解している。	
		7週	おさらい			理解度の確認	
	8週	中間試験			理解度の確認		
	4thQ	9週	試験返却 (答え合わせ) 小屋組			和小屋と洋小屋の違いがわかる。	
		10週	床組			床組みの構法を理解している。	
		11週	階段、開口			引違戸と扉の取り付けを理解している。	
		12週	外部仕上げ			屋根の吹き方がわかる。 外壁の仕上げがわかる。	
		13週	内部仕上げ			床、壁、天井の仕上げがわかる。	
		14週	おさらい			理解度の確認	
		15週	期末試験			理解度の確認	
		16週	試験返却 (答え合わせ) まとめ				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	構造	建築構造の成り立ちを説明できる。		2	
				建築構造(W造、RC造、S造、SRC造など)の分類ができる。		2	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	0	80
専門的能力	20	0	0	0	0	0	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

仙台高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	総合工学基礎	
科目基礎情報							
科目番号	0003			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験・実習			単位の種別と単位数	履修単位: 4		
開設学科	総合工学科Ⅲ類 (1年)			対象学年	1		
開設期	通年			週時間数	4		
教科書/教材	なし						
担当教員	相模 誓雄,吉野 裕貴,伊師 華江,熊谷 進						
到達目標							
①自身および他者のこころと体の健康を理解し、尊重できる。 ②数理・データサイエンス・AIへの関心を持ち、リテラシーレベルとしての能力を有する。 ③課題解決のために必要な知識や技能を身に付ける。							
ルーブリック							
	4	3	2	1			
メンタルヘルスに関する理解	自身および他者のこころと体の健康を尊重し、常にその姿勢を常に改めようとしている			自身および他者のこころと体の健康を尊重せず、その姿勢を改めない			
数理・データサイエンス・AIに関する理解	社会における利活用に関心を持ち、リテラシーを常に高めようとしている。		留意事項を理解して、データを読む、説明する、扱うという基本的な活用ができる	研究倫理について否定的な姿勢を改めない			
課題発見と解決	課題を自ら発見し、その解決のために必要な知識・技能を積極的に学ぶ	自ら課題を発見し、その解決のために必要な知識・技能を学ぼうとする	他者の助けがあれば課題を発見し、その解決のために必要な知識・技能を教わる	課題を発見できず、課題解決のために必要な知識・技能を教わる姿勢が見られない			
グループでの課題解決	グループワークに積極的に参加して、高い完成度での課題の達成に多大な貢献ができています	グループワークに参加し、課題の達成に貢献できている	グループワークに参加して、自分に与えられた作業を実行できる	グループワークに参加しておらず、自分に与えられた作業を実行できない			
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	前期： こころとからだの健康に必要な基礎的な心理学を学ぶ。 数理・データサイエンス・AIに関するリテラシーを学ぶ。 後期： 地域の課題や、企業のビジネスを想定した、もしくは実際のビジネスに展開するためのプロジェクト活動にグループで取り組む。 この中で「潜在的ユーザーニーズ」の発見から「イノベーション創出」へ至るプロセスを体験する。その過程で、価値ある「モノ」を作り出すために必要な知識や技術の多様性と、それを学び続ける重要性を学ぶ。 共感・課題発見・アイデア創出のサイクルを繰り返すことにより、価値を創造するこれからの工学の実際を体験し、その基礎となる考え方を学ぶ。						
授業の進め方・方法	前期： 学生相談室が主導してこころと体の健康についてのWSを実施する。 数理・データサイエンス・AIに関するリテラシーは、電子計算機室を利用する他、学生の持ち込みツール（PC、タブレット、スマホ）の利用も可能である。 実践を通して理解させる。 後期： 数人のグループに分かれてのプロジェクト活動を主体的に進める。 計7週の活動期間がある。発表は中間発表と最終発表の2回である。 活動期間での授業内容は各チームにより異なるが、基本的には共感・課題発見・アイデア創出が繰り返されるものである。						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	ガイダンス ①メンタルヘルスの重要性 ②情報倫理講話（数理・データサイエンス・AIの利活用に関する留意事項）	こころとからだの健康の重要性を認識し、これからの社会変化に対応する数理・データサイエンス・AIの重要性および留意事項し自身および他者のデータを守る上での留意事項を理解できる。			
		2週	メンタルヘルス① 皮肉課程理論およびエゴグラムに関するアクティブラーニング	高専の5年間で身につけるべき能力・知識を挙げることができる 卒業後のキャリアパスを具体化できる			
		3週	情報リテラシー基礎① LMSによる学習管理練習と各種コミュニケーションツール練習 社会変化（数理・データサイエンス・AI分野のイノベーション）からのコミュニケーションツールの変化について	イノベーションによる社会変化により、コミュニケーションの手段やあり方が現在進行形で変化していることを理解し、状況に応じた利活用ができる。			
		4週	安全教育 安全衛生に関する講話と学内見学	技術者・研究者に必要な安全衛生について理解できる。			

後期		5週	情報リテラシー基礎② 初等研究倫理（中等教育向け研究倫理、基礎・実践編）の解説と受講	実データを用いた課題解決（研究開発）における倫理について理解できる。
		6週	メンタルヘルス② 心理学講話とメンタルヘルス	こころとからだの健康について理解できる。
		7週	情報リテラシー演習① データを扱うスキル（表計算ソフトによる可視化の実習）	公的な機関が発行している統計データから表計算ソフト等を用いてグラフ化することができる（データを読む）。
		8週	データ・AI利活用の現場 企業におけるデータ・AI利活用の技術について（企業のゲスト講演）	数理・データサイエンス・AIを含む様々な科学技術が価値を創出するものであることを理解できる。
	2ndQ	9週	中間試験なし	
		10週	情報リテラシー演習② データを扱うスキル（表計算・プレゼンソフトによるデータの説明1）	様々な実データを基に自身の考察を発表することができる（データを説明し、扱える）。
		11週	情報リテラシー演習② データを扱うスキル（表計算・プレゼンソフトによるデータの説明2）	様々な実データを基に自身の考察を発表し、議論することができる（データを説明し、扱える）。
		12週	数理・データサイエンス・AI① ロボティクス分野における活用領域について講演とWS	ロボティクス分野における数理・データサイエンス・AIが課題解決の有用なツールになっていることを理解できる。
		13週	数理・データサイエンス・AI② マテリアル・環境分野における活用領域について講演とWS	マテリアル・環境分野における数理・データサイエンス・AIが課題解決の有用なツールになっていることを理解できる。
		14週	数理・データサイエンス・AI③ 機械・エネルギー分野における活用領域について講演とWS	機械・エネルギー分野における数理・データサイエンス・AIが課題解決の有用なツールになっていることを理解できる。
		15週	数理・データサイエンス・AI④ 建築・デザイン分野における活用領域について講演とWS	建築・デザイン分野における数理・データサイエンス・AIが課題解決の有用なツールになっていることを理解できる。
		16週		
	3rdQ	1週	チームビルディング	チーム内でのルールを設定できる チーム内での自身の役割を具体化できる
		2週	ゲスト講演⑤	社会人として求められる能力を具体化できる
		3週	共感の技術	課題発見のために、ニーズを探るための質問紙を作成できる
		4週	共感の技術②	アンケート調査の結果を分析し、ペルソナを設定できる
		5週	課題発見	事実に基づいて情報を分析し、課題を発見できる
		6週	プロジェクトの推進	ここまでの内容を活用し主体的にプロジェクトを推進できる 与えられた期間の中で計画的にプロジェクトを推進できる
		7週	プロジェクトの推進	ここまでの内容を活用し主体的にプロジェクトを推進できる 与えられた期間の中で計画的にプロジェクトを推進できる
		8週	プロジェクトの推進	ここまでの内容を活用し主体的にプロジェクトを推進できる 与えられた期間の中で計画的にプロジェクトを推進できる
	4thQ	9週	プロジェクトのプレゼンテーション	効果的なプレゼンテーションを実演できる プロジェクトの課題をチーム内で共有できる
		10週	プロジェクトの改善	フィードバックを受けてアイデアをブラッシュアップできる
		11週	プロジェクトの推進	ここまでの内容を活用し主体的にプロジェクトを推進できる 与えられた期間の中で計画的にプロジェクトを推進できる
		12週	プロジェクトの推進	ここまでの内容を活用し主体的にプロジェクトを推進できる 与えられた期間の中で計画的にプロジェクトを推進できる
		13週	プロジェクトの推進	ここまでの内容を活用し主体的にプロジェクトを推進できる 与えられた期間の中で計画的にプロジェクトを推進できる
		14週	プロジェクトのプレゼンテーション	効果的なプレゼンテーションを実演できる
		15週	振り返り	プロジェクトの中で学んだことを言語化し、自身のキャリア形成に転移する
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	物理、化学、情報、工学における基礎的な原理や現象を明らかにするための実験手法、実験手順について説明できる。	2	前2
				実験装置や測定器の操作、及び実験器具・試薬・材料の正しい取扱を身に付け、安全に実験できる。	3	
				実験データの分析、誤差解析、有効桁数の評価、整理の仕方、考察の論理性に配慮して実践できる。	3	

				実験テーマの目的に沿って実験・測定結果の妥当性など実験データについて論理的な考察ができる。	3	
				実験ノートや実験レポートの記載方法に沿ってレポート作成を実践できる。	3	
		技術者倫理 (知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理 (知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。	2	
				情報技術の進展が社会に及ぼす影響、個人情報保護法、著作権などの法律について説明できる。	2	
				高度情報通信ネットワーク社会の中核にある情報通信技術と倫理との関わりを説明できる。	2	
				環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。	2	
				国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	2	
				知的財産の社会的意義や重要性の観点から、知的財産に関する基本的な事項を説明できる。	1	
				知的財産の獲得などで必要な新規アイデアを生み出す技法などについて説明できる。	1	
				技術者の社会的責任、社会規範や法令を守ること、企業内の法令順守(コンプライアンス)の重要性について説明できる。	2	
				技術者を目指す者として、諸外国の文化・慣習などを尊重し、それぞれの国や地域に適用される関係法令を守ることの重要性を把握している。	2	
				全ての人々が将来にわたって安心して暮らせる持続可能な開発を実現するために、自らの専門分野から配慮すべきことが何かを説明できる。	2	
				技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。	2	
		情報リテラシー	情報リテラシー	情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識を活用できる。	3	
				論理演算と進数変換の仕組みを用いて基本的な演算ができる。	3	
				コンピュータのハードウェアに関する基礎的な知識を活用できる。	2	
				情報伝達システムやインターネットの基本的な仕組みを把握している。	1	
専門的能力	分野別の工学実験・実習能力	機械系分野【実験・実習能力】	機械系【実験実習】	実験・実習の目標と心構えを理解し、実践できる。	3	
				災害防止と安全確保のためにすべきことを理解し、実践できる。	3	
				レポートの作成の仕方を理解し、実践できる。	3	

評価割合

	毎回の受講内容確認（アンケート）	課題	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	80	20	100